

2016年10月22日

# 正徳寺 報恩講

ほうおんこう  
「報恩講」は真宗の最も大切な法要です。親鸞聖人をご縁として、仏法が私  
に届いたことを喜び、感謝する集いです。

報恩講』金子 みすゞ

「お番」の晩は雪のころ、  
雪はなくても暗のころ。

くらい夜みちをお寺へつげば、  
とても大きな蠟燭と、  
とても大きなお火鉢で、  
明るい、明るい、あたたかい。

大人はしつとりお話で、  
子どもは騒いじゃ叱られる。

だけど、明るくにぎやかで、  
友たちみんななよつていて、  
なにかしないじゃいられない。

更けてお家へかえっても、  
なにかうれしい、ねられない。

「お番」の晩は夜なかでも、  
からころ足駄の音がする。

去る十月二十二日に、おかげ  
さまをもちまして無事報恩講  
をお勤めすることができまし  
た。

報恩講は真宗の宗祖親鸞聖  
人の祥月命日である十一月二  
十八日の前後に営まれ、正徳寺  
では例年十月の後半にお勤め  
しています。

皆さんは報恩講をどのよう  
に感じていらっしゃるでしょ  
うか。

今日は皆さんに、金子みすゞさ  
んの『報恩講』という詩をご紹  
介します。

金子みすゞさんの生誕の地、  
山口県長門市仙崎は捕鯨の町  
として知られ、真宗の教えが生  
活に根付いている土地だそう  
です。「お番」というのは、この  
地方での報恩講の呼び名です。

報恩講には大人も子供もお  
寺に集まり、いつもと違う雰  
囲気にわくわくしながら遅くま  
でにぎやかに過ごす。そんな雰

囲気が伝わってきます。

詩に描かれている風景は、夜  
の風景ですね。皆さまにご案内  
している正徳寺の報恩講は日  
中の時間ですが、前日にも報恩  
講の「お逮夜(たいや)法要」と  
いう儀式を寺内で行っており  
ます。報恩講は複数日に渡りお  
勤めしている寺院も多く、本山  
では七日間にわたり盛大に執  
り行われています。

来年からは、前日夕方のお逮  
夜もあわせて皆様にご案内す  
る予定です。

時代により場所により、報恩  
講の形はさまざまですが、法  
光に照らされて心明るくあた  
たかな集いになりますよう願  
っております。



## 今年の報恩講の様子



21 日夕方 お逮夜 (たいや)

22 日朝 晨朝 (じんじょう)

お逮夜には「御伝鈔 (ごでんしょう)」をお読みします。親鸞聖人の曾孫・覚如上人が親鸞聖人の生涯を記されたものです。晨朝には「御文」をお読みします。本願寺八世・蓮如上人がご門徒にあてて出されたお手紙です。



22 日 11 時～お齋

皆さまお昼前から三々五々お参りに来られます。まずは本堂にお上がりいただいた後、香雨部屋にてお齋を召し上がっていただきました。お渡ししているお弁当のほかお漬物やお茶などお出しし、ご歓談いただいています。



12 時～法話

今年は蓮如上人御旧跡「光闡坊」住持 佐野明弘師にお出ましました。

「念仏もうす身」をテーマにお話しいただき、一同ご法話に聞き入りました。



13 時～報恩講法要

報恩講では、お花やお飾りを華やかなものにします。

この日にしか用いない仏具などもあり、普段と違う雰囲気味わっていただけるかと思えます。法要中には、声明会で練習しているお経をご唱和いたします。



法要後には先生を囲んで懇親会を開きました。

普段なかなかお話しできない、全国からお参りにいらしたご門徒さんお坊さんが卓を囲んでお話ししました。

こうして無事平成二十八年の報恩講を終えることができました。また来年、皆さまと報恩講をお勤めできますのを楽しみにしております。

来年の報恩講は 10 月 14 日 15 日でお勤めする予定です。どうぞお参りください。